

白

磯部智加衣

広島大学大学院生物圏科学研究科

Graduate School of Biosphere Science

要 旨

内集団を高揚させるような優れた内集団成員が他の成員から拒否されるのはどのようなときであり、逆に、その成員が賞賛され、受け入れられやすくなるのはどのようなときなのであろうか。本論

(Turner, 1987) を見直すことを目的とした。

自己をどのように捉えるのかに関わる研究では、主に、自己を個人的アイデンティティと社会的アイデンティティとに区別し、議論を展開してきた。ここで、個人的アイデンティティとは、個人が独特で他の全ての人間とは違っているものとしての自己概念であり、個人間の相互作用に影響するとされている。一方、社会的アイデンティティは、自己を他の内集団成員と交換可能であるものとしての自己概念であり、集団間の相互作用に、自己アイデンティティで捉えることが集団行動にどのようにして影響するかについて、自己評価維持動機に注目して説明を行ったのが社会的アイデンティティ理論 (Tajfel & Turner, 1979) である。この理論では、自己

評価しようという動機づけが働く、そのために、人は、その集団、に所属する集団内行動に従事すると説明されている。この理論を発展させた自己カテゴリー化理論 (Turner, 1987) では、そのような内集団を肯定的に評価しようという動機づけに基づく認知・行動がなされるためには、個人が社会的アイデンティティで自己を捉えることが必要で、これを「自己カテゴリー化」における集団 (カテゴリー) の顕現化である」と述べている。

しかしながら、この理論の動機づけが、個人、に注目して

するわけではないという主張が散見されるようになってきた (e.g., 遠藤, 1999)。また、個人が個人的アイデンティティと社会的アイデンティティを共に維持・高揚することを目指し、自己と環境に対して (Spears, 2001)。

本論文では、このような批判をふまえ、自己カテゴリー化の過程について、個人の動機づけという

側面から検討した。具体的には、集団間比較の方向といった集団文脈と、個人が内集団をどのように捉えているの、な ら ぬ づ け の い ち、 が自己カテゴリー化過程に つ づ いて

加えて、本論文は、優れた内集団成員に関わる現象の解明も目的とするため、集団内の成員間関係について検討することを通し、自己カテゴリー化過程を見直した。 を する のとして自己評価維 Tesser, 1988) が知られている。この理論によると、その過程には以下の2つが存在す

も 比 比 も も 自己カテゴリー化理論を考慮し、このような個人間比較の過程を集団という観 と、 集団成員との比 の 比 ティティが優勢である場合には反映過程が生起しやすいといえる。そこで、本論文では、集団内での個人間比較の際に、 の の の た自己カテゴリー化過程へのアプローチを行った。

第1章. 問題の所在

り化理論で説明された自己カテゴリー化の規定因を個人の自己評価への動機づけ 化化する必要性を示した。自己カテゴリー化過程を規定するものとして‘集団文脈’とそれを個人が どのように捉えるのか・個人的アイデンティティがどのような状態にあるのかといった‘個人内要 因’に着目することが重要であると考えた。また、カテゴリー化過程の検討において、集団内での個人間比較で示される効果を自己カテゴリー化の指標とする意義について述べた。最後に、本研究の基本仮説を

第2章. 集団間文脈が自己

評価維持 評価 ば、自己カテゴリー化理論の主張とは、 よ と 集団が外集団よりも優れている「集団間下方 で よる る が 1994)。

これらの仮説 1 では、社会人を対象に、会社を内集団とした想定法による調査を行った。次に、研究2では、女子大学生を対象に学科を内集団とした準実験を行った。研究2においては、集団間上方比較状況が、集団内の個人間比較に及ぼす効果性に注目し、特性自尊心をさらなる要因として加えて検討を行っ

高揚に関心を高めるかを決定し、結果として自己カテゴリー化に影響を及ぼすことが示唆された。

第3章. 集団間文脈と個人の内的要因が自己カテゴリー化過程に及ぼす影響

本章では、知覚 知覚 「

! " # \$

! " #